

自己評価及び学校関係者評価書（令和5年度）

作成年月日 令和6年2月5日  
 学校名 特別支援

1. 本年度の経営の重点目標

(1)教職員の「授業力の向上」を目指す。 (2)共生社会の実現を目指し、地域との連携を推進する。 (3)大学や関係機関と連携し、研究の発信、研修の実施を推進する。 (4)教育実習の充実を目指す。 (5)安心安全な学校経営を推進する。
--

2. 本年度の指導の重点目標

(1)児童生徒が地域で生きるために必要な資質・能力を育成する。 (2)知的障がい・自閉症教育における多様な学び方を重視した実践を行う。 (3)社会参加を目指した実践的な力を育成する。 （知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成） (4)人や社会とかかわり合う力を育成する。 （学びに向かう力、人間性等の涵養） (5)家庭・地域と連携した教育活動の実践を行う。
--

3. 自己評価結果 【達成状況】 A：十分である， B：概ね十分である， C：不十分である

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学校経営	学校教育目標の具現化と達成に向けた取り組み	B	・教職員、保護者ともに目標の理解はおおむねできており、各学部の教育の中で、具体的な実践を進めた。次年度は、本年度の課題と目指したい方向性を具体化し目標の具現化と達成に向けて取り組む。	A	A
	入学選考（定員充足）の取組	A	教育活動、研究、研修を通して本校の情報発信を積極的に進める。	A	A
	業務の精選・効率化	A	ICTを活用した情報交流を進め、会議の削減と時間短縮に取り組んだ。会議や業務の意義を明確にし、さらに整理していく。	A	A
学校関係者評価者意見		継続した取り組みに期待する。			
教育課程	小中一貫教育課程に関する取組	B	小学部・中学部・高等部間の教育課程の共通理解に課題があった。特別支援学校における小中高一貫性の押さえを確認し、次年度の教育課程を編成する。	A	A

	「地域で生きる」を目指した教育課程の編成と改善	B	地域資源を活用した学習活動が積極的に行われた。地域の人材活用について検討する。	A	A
	知的障がい教育における最適な教育課程の編成と改善	A	単元計画の作成が定着しつつあり、教科横断的な学習活動が推進された。交流及び共同学習や宿泊的行事の位置づけの整理を行う。	A	A
学校関係者評価者意見		地域との連携を深めていってほしい。 町会や地域の人材を積極的に活用していってほしい。教職員の働き方改革にもつながる。			
学習指導 (保育活動)	一人一人のねらいを明確にした学習活動の推進	A	さらに一人一人に応じた多様な学び方を工夫しながら学習活動を進める。	A	A
	様々な実態把握に基づき、根拠のある指導支援の充実	A	アセスメント等の研修を設定し、根拠のある指導支援の推進に努める	A	A
	情報活用能力の育成、個別最適な学び、協働的な学びによる資質・能力の育成に向けたICT教育の推進	A	実態に応じたアプリ等の活用を工夫する。	A	A
学校関係者評価者意見		継続した取り組みを期待する。			
園児指導 (児童・生徒指導)	いじめ、体罰防止の取組	C	職員間で徹底したいじめ、体罰防止にかかわる研修を行い、いじめや体罰の予防と早期発見を行う。	A	A
	児童生徒の実態把握に基づく指導情報の共有と配慮した指導	A	学部内のケース会議と全校体制の児童生徒情報交流会議、校内支援委員会との連携を密にし、適切な指導・支援を検討、実践する。	A	A
	身に付けた力を家庭や学校、地域で発揮しながら新たな経験や学びを続ける意欲の育成	B	学校、保護者、地域（医師・相談支援事業所）等との連携を図り、役割分担と継続的な支援の方法を検討し、実践する。	A	A
学校関係者評価者意見		いじめた体罰防止にかかわる研修等の結果を保護者に伝えていく過程を検討していくことが必要である。			
健康 安全	各科検診及び学校保健指導の充実	A	養護教諭を中心に、担任及び保護者と連携、協力し、計画的に進めていく。	A	A
	健康・安全に関する指導・支援及び管理の充実	A	感染予防マニュアルや学校安全計画、危機管理マニュアルの点検や見直し、改訂を行う。 四校園、保護者と連携した災害時の対応訓練等を実施	A	A

	保健室経営の工夫と相談機能の充実	A	する。 児童生徒の様々なサインを丁寧に見取り、情報交流のもと、指導支援に生かす。	A	A
学校関係者評価者意見		特になし。			
教育環境	児童生徒及び職員が安心して学ぶ学習環境の整備	C	児童生徒が安全安心な環境の中で主体的に学ぶことができるよう保護者や関係機関との連携を推進する。職員のコミュニケーション力の向上に向けた研修を設定する。	A	A
	I C T環境の改善	B	児童生徒、教職員が活用しやすいI C T環境の整備を進める。(職員研修、家庭との連携)	A	A
	図書室の整備と活用	B	児童生徒、教職員、保護者が活用しやすい図書館整備を進める。	A	A
学校関係者評価者意見		教員のコミュニケーション力の向上に向けた研修は、外部機関の方を招集するとよいと考える。			
大学との連携	大学の中期目標・中期計画における本校が果たすべき役割の実現	A	先進的な研究課題の検討を進め、発信する。	A	A
	大学との共同研究や教育委員会との連携事業の推進	A	函館校、他キャンパスと連携を図り、共同研究等に取り組む。地域の公立校との連携を推進する。	A	A
	教育実習等における教員養成、研修の充実	A	大学及び教職大学院と連携し、教育実習の充実を図る。	A	A
学校関係者評価者意見		地域との連携を深めていってほしい。			
その他					
学校関係者評価者意見					

学 校 評 価 報 告 書（令和5年度）

作成年月日 令和6年2月14日

学 校 名 附属特別支援学校

<p>評価総合所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標は、教職員及び保護者または入学を考える地域の保護者に、おおよそ理解を得ている。各学部で学校教育目標を受けた実践を行い、地域とのつながりや地域で社会自立するための学習活動の取組を行った。</li> <li>・学校教育目標をそれに続く学部目標等との関連づけを行い段階的な学習活動を設定し、一貫性のある教育活動を目指しているが、教職員の入れ替わりの中で、他学部の学習状況の共通理解が課題として挙げられた。</li> <li>・重点教育目標を精査し、一年間で目指すことの焦点化を図り、業務の優先順位や担当を明確にしことで、年度末反省の課題がより具体的に挙げられた。</li> <li>・業務や会議の意義を共通理解し、業務の精査、会議の削減、学校体制（各分掌、各委員会）の見直しを行った。</li> <li>・教育活動では、各学部で地域を活用した学習活動、交流及び共同学習についての課題があった。</li> <li>・中学部を中心に ICT を活用した授業実践が進んだ。</li> <li>・地域教員研修をとおして、本校と公立学校の教職員がともに学ぶ機会をもった。</li> <li>・保護者と教職員での参観日や支援ミーティングの充実度に差異があった。</li> </ul>
<p>改善方策</p>	<p>〈学校経営〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育目標の実現のための取組を、保護者や地域の方にも伝えながら、地域を活用した学習活動を展開する。</li> <li>・本校の教育課程のよさを生かしながら、児童生徒が資質・能力を育成するための教育課程の編成・実施・評価を行う。</li> <li>・会議や分掌業務を精選・削減することで、自己研修や授業づくりに取り組む時間を確保していく。</li> <li>・今後も附属学校に求められる役割についての具体的な内容を示し、教職員が取り組む方向性を明確にする。</li> <li>・教職員一人の役割と業務の「見える化」を図り、教職員が互いにサポートし合える環境を作る。</li> <li>・児童生徒の自立に向けて授業の質の向上を図るために、非常勤講師の業務内容を見直す。</li> </ul> <p>〈学習指導〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の教育支援計画等で示される児童生徒の願い、保護者の願いを整理し、授業における育成する資質・能力を明確にする。</li> <li>・ICT教育については、児童の実態に応じてさらに活用していく。</li> <li>・地域の学校、施設、大学等を活用した学習活動について、人とのかかわりを増やしていけるように計画する。</li> </ul> <p>〈大学との連携〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・函館キャンパスや他キャンパスと、研究や授業改善などでの協働・連携を行う。</li> </ul>

- |  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・保護者が活用できる図書室を目指すことで、学校の取組への理解につながることを目指す。</li><li>・教育実習を中心に、大学や教職大学院との連携をより図っていく。<br/>(教員の専門性)</li><li>・教員の専門性向上のための研修等を積極的に進める。<br/>(保護者との連携)</li><li>・保護者が参加しやすい学校行事、P T A活動を検討する。<br/>(地域との連携)</li><li>・学校教育目標の実現のための学校の取組を分かりやすく示す工夫をする。</li><li>・ホームページを活用し、発信する。</li><li>・将来の充実した生活の実現のため、医療、福祉、行政と保護者との協働・連携を密にしていく。<br/>(研究の発信)</li><li>・公立学校との共同研究を推進する。</li><li>・公開研究協議会は、参集とオンラインでの実施を並行し、全国に発信する。</li></ul> |
|--|--|